



すみえ
純惠的

子育て親育て! "もっと"話

motto(mô:to)



石山純恵さん。福島市在住、2児の母。起業、国際結婚、離婚を経て平成20年に再起業。多言語翻訳と研修立案等の会社「クリフ」を設立。NPO法人Tomorrowに参画し、市内2か所の学童保育所を運営。福島の女性起業家として講演や研修セミナーを行うほか、子どもから企業管理職までの幅広い人材教育事業に関わる。豊富な経験を生かし多方面で活躍中。【☎024(531)8120】

子どもにとって一番良い影響は 母である自分が笑顔で 充実した毎日を送る姿

「自分の言うことは聞かないし、息子のことから分らない。もう自信がない」と子育て中のシングルマザーが消沈した表情で私の元に来ました。彼女は子どもが幼児期に離婚。必死で仕事も子育てもしてきて問題は無かったのに最近は何となくです。私も同じシングルマザーで彼女の大変さはよく理解できます。反抗期だから仕方ない、時期が来れば大丈夫と言いたくない私は、原因を探りながら話を聞いていました。そして彼女の中に

「お父さんがいないから...その分、父親の役割も自分で」と頑張り過ぎていてるのではないかと、そんな母を見ていた子どもは、「自分も頑張らなければお母さんのために良い子でいたい」と頑張り過ぎていたけれど、成長と共に自分の思いとお母さんの思いにズレを感じて反発しているのではないかと感じたのです。

私は「そんなに頑張らなくてもいいんじゃない? 家族に父親の存在がないのは事実。私たちが母親が父親の代わりをしようとしても無理があるのでは」と言うと、彼女は力チンと表情が硬くなりました。私は「マズイ! と感じながらも、シングルマザーだからといって肩身が狭いと感じる必要はない。一人が父母役をこなすのは神業。特に息子は女性の私たちの予測がつかない言動をするもので、それが成長していることだと思う」と話すと次第に表情が柔らかくなりました。それから2週間後、彼女は「お母さん頑張り過ぎていたみたい。これからあなたの好きなようにしていいと宣言したら、今度は何でも話すようになって息子と上手に言っている」とうれしそうに言っていました。

心の中の「しなればならない」という思考が自分を苦しめる原因になることもあるもの。目いっぱい頑張り過ぎて、笑顔になる余裕や客観的に見る事ができなくなってしまう気がします。子どもにとって一番良い影響は「母である自分が、笑顔で充実した毎日を送る姿を見せること」。そうするためにはどうするか? それを考えてみるのが良いと思います。